

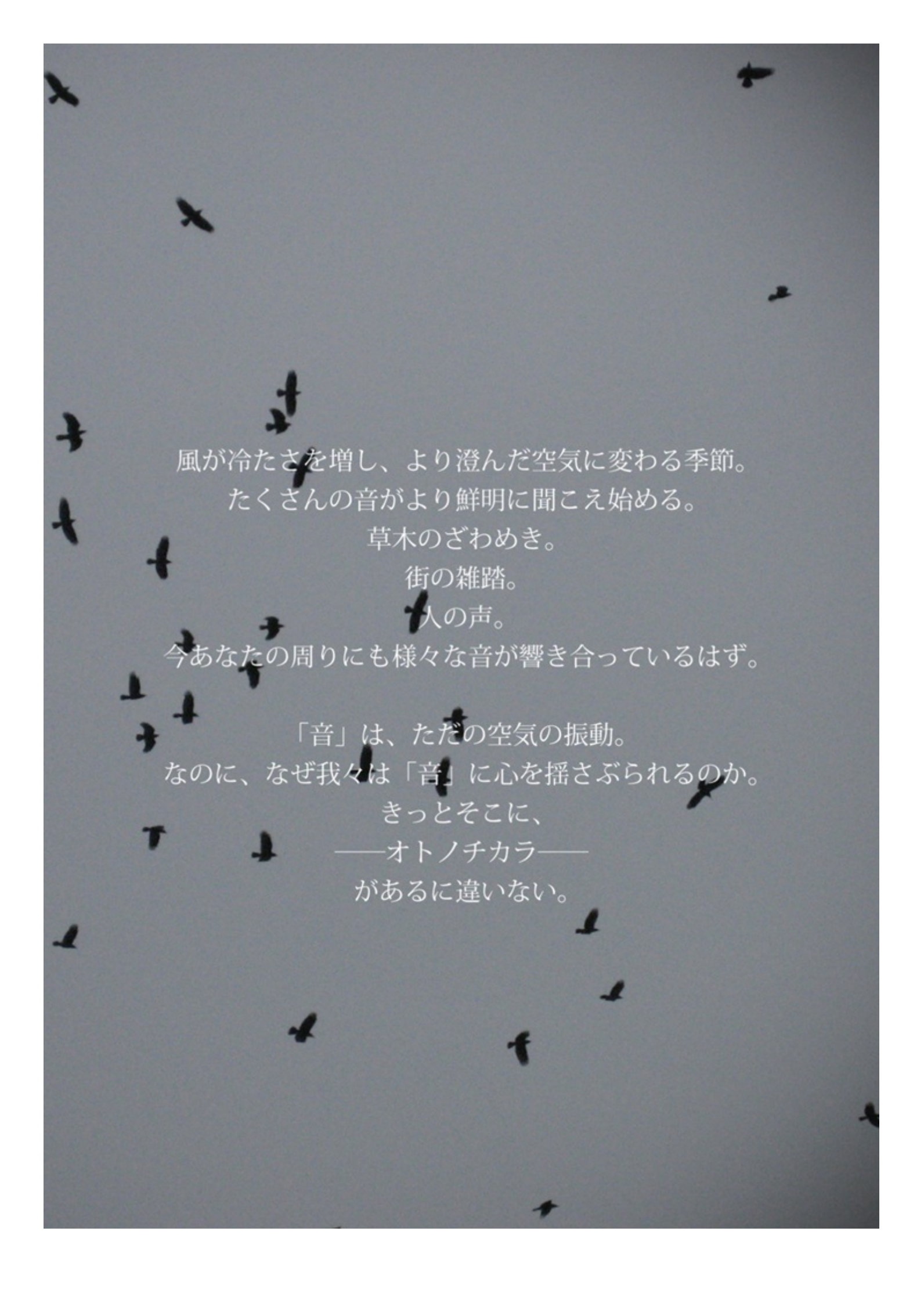


makoto

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE

<http://yba.hongwanji.or.jp>

no.146



風が冷たさを増し、より澄んだ空気に変わる季節。

たくさんの音がより鮮明に聞こえ始める。

草木のざわめき。

街の雑踏。

人の声。

今あなたの周りにも様々な音が響き合っているはず。

「音」は、ただの空気の振動。

なのに、なぜ我々は「音」に心を揺さぶられるのか。

きっとそこに、

——オトノチカラ——

があるに違いない。

makoto

no.146

「オトノチカラ」

Index

- 02：[特集 1] 音結ぶ ご縁
- 04：[特集 2] 雅楽
- 06：[特集 3] お寺 meets MUSIC
- 10：[全国大会報告]
RE:START 仏青～繋がる笑顔～
- 12：[連載] 彼國の便り
- 13：編集後記

表紙：大遠忌法要で用いられる雅楽器・鼈太鼓

01 *makoto* no.146





音結ぶ縁

「宗祖讚仰作法（音楽法要）」を知っていますか？これは雅楽とオルガンの音色による伴奏が響く中で、僧侶とお参りされる方がたが一緒に唱和する法要です。いくつかのお勤めがありますが、その中でも私の好きな「和讚・念仏」をご紹介します。

「和讚・念仏」は親鸞聖人が遺されたご和讚のいくつかにメロディーをつけたものですが、あの独特の歌詞の乗せかたに、初めて聞いたとき鳥肌が立ちました。また、一度聴いたらなかなか忘れないあの旋律。

実は、これが一番のポイントだったそうです。「和讚・念仏」にメロディーをつける上で最も重要視したのが「となえやすいもの・覚えやすいもの・日本的な旋律のもの」。お参りする全ての人にと覚えてもらうには、聴いてすぐわかるもの↓すぐとなえられるもの、毎日となえてもらうためには覚えやすいものを、ということでの今の旋

♩=75 次第に速く

同音

じっ ぼ(り) みじん せ かいの

ねんぶつ の しん(り) を みそなわし

せつ しゅ しーて すてざれば

あみだとなづけ たてまつる

© 浄土真宗本願寺派

▲「和讃・念仏」の冒頭部分



律になったそうです。私は何度かこの音楽法要に出会わせていただいています。いつでもお参りされる方の声がしっかりと聞こえてきます。

「音楽」は、奏でる人の気持ちそのままに、音になります。また、周りの人とのコミュニケーションツールにもなり、互いの響きやその重なりを味わうことで、心が震えるような感動を共有することができるのです。そして、そのひとつの感動はその場にとどまらず、周りへも伝わり、また次の感動へとつながって、大きく広がっていくのです。

私は、今回の音楽法要はまさに音楽というツールを使うことで、親鸞聖人がお示しになられたみ教えに出会うための「ご縁づくりの空間」になっていると思います。今年の四月から勤修されている親鸞聖人七百五十回大遠忌法要もあとわずか。ぜひ、一緒にお参りしましょう。

文・中山 真理子



雅 楽

「雅楽」とは宮中や寺社などに伝わる日本古来の音楽や舞のことをいいます。日本の歴史は、奈良時代に大陸より伝わり、七五二年の東大寺での大仏開眼供養会で演奏されたと記録されています。大規模な合奏形態で演奏される伝統音楽としては、世界最古の様式であり、「世界最古のオーケストラ」ともいわれます。

法要で合奏の中心となる雅楽器は、三つの管（吹き物）に三つの鼓（打ち物）です。三つの吹き物とは「龍笛」、「篳篥」、「笙」です。

「龍笛」は竹でできた横笛で、2オクターブという広い音域をもちます。主旋律に絡み合うように演奏するその音色が、「舞い立ち昇る龍の鳴き声」に似ているため、名前の由来となっています。雅楽の合奏では、多くの場合、はじめにその音色を聴くことができます。

「篳篥」は竹でできた縦笛で、息の強弱や、リードのくわえ方によって滑らかに音が変化します。龍笛より音域が狭く、小さな楽器ですが、びっくりするほど大きな音を出します。主旋律



▲ 篳篥
ひちりき



▲ 龍笛
りゅうてき



を奏でるその音色は「地に在る人の声」を表していると例えられます。

「笙」は17本の細い竹管を縦に丸く並べた楽器で、竹管に空けられた穴を押さえ、息を吸ったり、吐いたりすることで11種類の和音を奏で、おもにハーモニーを担当します。息の吸い・吐きで音を出せるため、息継ぎがなくても、音を出し続けることができます。奏でられる音色は、「天から差し込む光」を表すといわれ、楽器の形が鳳凰ほうおうに似ていることから、鳳笙ほうしょうとも呼ばれています。

この三管、さらに太鼓等の打ち物の出す音色や旋律は各々異なります。にもかかわらず、それが美しい響きとなるのはとても不思議です。しかし雅楽が美しいのは、実は異なる音色や旋律が一つに調和するが故かもしれません。本願寺においては江戸時代初期に十四世寂如上人じやくにょしょうにんが法要に用いられた事にはじまり、現在でも報恩講ほうおんこうや降誕会ごうたんえなどの法要で雅楽が奏でられます。大遠忌法要では七十名を超える奏楽員そうがくいんが出勤する事もあり、厳かで壮大な響きの中、法要が執り行われます。



▲ 笙
しょう

文・

野口 哲城



お寺 meets MUSIC

近年、お寺での音楽イベントが全国各地で開催されています。
コンサートホールでもない、ライブハウスでもない、
「お寺」という身近でありながらちょっと特殊な空間で、
仏教と音楽がどんな化学反応を起こしているのか。
今回はそんなお寺での音楽イベントをいくつかご紹介します！

photo：メリシャカ LIVE2010
u-zhaan × rei harakami



2011年12月23日。今年で3回目を迎える「メリシャカ LIVE」が京都・西本願寺、聞法会館にて開催されます。これまで〈法話 meets MUSIC〉をテーマに、音楽というエンターテインメントと仏教のお話＝法話とを融合させ、向井秀徳や U-Zhaan × rei harakami、大槻ケンヂなどのアーティストが出演し、多くの反響を呼んだこのイベント。今年はシンガーソングライター・曾我部恵一さんと、京都を拠点に活動する4人組バンド・バンド、Nabowa が出演します。

今回は、そんな「メリシャカ LIVE」を主催するメンバーの一人、佐藤知水さんにお話を伺いました。
interviewer・日下 賢裕

——今日はよろしくお願いします。

佐藤：よろしくお願いします。

——まずお伺いしたいのは、なぜこのようなお寺でのイベントをしようと思われたのか、ということなんですが。

佐藤：そうですね、これはイベントだけではなく、「メリシャカ」というサイトもそうなんですが、やっぱり若い人に仏教に触れて欲しいという思いからですね。20代、30代は、どうしても仏教というものから離れがちな年代だと感じる場所があります。でも、若い年代の人にも仏教は必ず響くところがある。だからこちらの側が若い人のライフスタイルに合わせていくことで、若い人が仏法を聞ける場所ができるんじゃないかな、というのがきっかけですね。

——なるほど。そこで法話と音楽とを融合させようと。

佐藤：はい。もともとのお寺は落語や能、^{しょうみょう}声明などの文化の発信地としての役割もありました。けれど現代ではその芸能に関する役割がTVなどに移行してきています。でもやっぱり生で体感するということも、若い人の持つスタイルだと思うんです。音楽をライブで感じるように、仏法も生で感じて欲しいな、という思いがあります。音楽で泣けるように、

法話もまた心に迫るものが必ずありますから。芸能活動をされている方とお坊さんが一緒になることで、お坊さんもモチベーションが上がるというねらいもあつたりします。

——今年は曾我部恵一さんと Nabowa さんがゲストということですが、この二組はどんなところが魅力なのでしょうか。

佐藤：そうですね、曾我部さんはその歌や音楽性はもちろん、ギター一本で、非常に自由に活動されている、そんなところに非常に魅力を感じます。Nabowa さんは、このイベントでいつもお世話になっているカレー屋さんとの繋がりがあって、インストなんですけど、すごく音に温かみがあって、是非ライブを聞いてみたいなと思いました。

——楽しみですね。私もワクワクします。では、これからの展望をお聞かせください。

佐藤：「メリシャカ LIVE」はもちろんなんですけど、母体である「メリシャカ」自体を盛り上げるとともに、一緒にやっているメンバーそれぞれが主体となったイベントも行いたいですね。「メリシャカ LIVE」は、これまでは西本願寺の聞法会館で行ってきましたが、ウチでもして欲しいという声もいただいているので、全国各地で行えたらと思います。音楽と法話だけでなく、トークなども交えた仏教総合イベントのようにできるといいなあなんてことも考えています。

——それは大きな目標ですね。では最後に、「メリシャカ LIVE」に来られる方へのメッセージをお願いします。

佐藤：音楽はもちろん、初めて仏教に触れたりお坊さんの話を聞いたりして、いろんなことを感じて、そして考えて欲しいです。お寺でのライブということに対する違和感だったり、そんな感想なども聞きたいです。ネットなどの繋がれるツールもあるので、このイベントを、お坊さんと関わるキッカケにもしていただけたらと思います。

——どうもありがとうございました。



▲ 名司会、昔ジョビジョバ、今お坊さんの木下明水さん



▲アツい想いを語る佐藤知水さん

「メリシャカ LIVE 2011」

日時：2011年12月23日(金・祝)15:30 start

会場：西本願寺聞法会館 3F 多目的ホール

出演：曾我部恵一、Nabowa

チケット：前売り 3,000 円(特設サイトにて受付)

メリシャカライブ特設サイト <http://ms-live.net/>

メリシャカ <http://www.merry-shaka.com/>

2006年より富山県・宇奈月のお寺で開催されている「お寺座」。お寺は古くから、地域のコミュニケーションの中心であったり、落語や浪曲が生まれる文化の中心でもありました。そこで、〈お寺は文化の発信地〉をキーワードとして、趣旨に賛同してくれるアーティストと共に、音楽ライブを中心としたイベントを行っています。

今年6回目となるこの「お寺座」、チケットは即日完売し、全国からファンが集うなど、地方のお寺でありながら、その人気ぶりは他に類を見ません。

ライブだけでなく、僧侶によるミニ法話や、最後にはお勤めを行うなど、気軽にお寺や仏教と出会うきっかけともなるこのイベント。来年の開催も乞うご期待です！

○ information

お寺座 <http://www.zengyou.net/oteraza/>
白雪山 善巧寺 <http://www.zengyou.net/>



お寺での音楽イベントのパイオニア的存在ともなっているのが、この「誰そ彼」です。2003年から不定期で開催され、すでに20回以上開催されており、開催当初から、音楽と法話、読経とを組み合わせ、今ある数々のお寺イベントのお手本ともなっています。

さらに、東京のど真ん中のお寺の本堂という非日常空間で行われるこのイベントは、これまでも国内のみならず、海外のアーティストも出演するなど、誰にも真似できないオンリーワンのイベントとして人気を博しています。

夕暮れ時、全てが曖昧に溶けこんでいくひとときに、お寺の本堂で心地良い音に揺られる。そんな贅沢な時間・空間を、是非体感しに行かれてみてください。

○ information

誰そ彼 <http://www.taso.jp/>
梅上山 光明寺 <http://www.komyo.net/>





RE:START 仏青 ～繋がる笑顔～

「2011 全国真宗青年の集い
親鸞聖人 750 回大遠忌法要記念大会」報告

大会実行委員会行事部会長
杉本真樹子

8月6日、暑さ厳しい季節、五百名以上の方のご参加のもと「二〇一一年全国真宗青年の集い 親鸞聖人七百五十回大遠忌法要記念大会」は開催されました。

今大会は、五十年に一度の「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」にあわせた記念大会で、「安穩・For your smile. Peace & Harmony」をテーマとして開催しました。

本願寺の御影堂という厳かな雰囲気の中での開会式。皆で「讃仏偈」をお勤めし、大会は始まります。

開会式の後、講師の的場亮先生より「夢をかなえるための日々感謝」のテーマで、熱い講演をいただきました。涙を流される方もみられ、普段気付かない「大切な人への思い」を再確認することができたのではないのでしょうか。

先生の講演を受け、「グループワーク」では大切な人へのメッセージを参加者の皆さんに書いていただき、腕輪念珠を作りました。そしてプログラムは「夜の集い」へと進んでいきます。

夕刻から始まった「夜の集い」では、今大会の参加者と、「龍谷総合学園合同文化祭」に参加されていた宗門関係学校の生徒が交流を深めました。素晴らしいゲストをお迎えし、ステージ企画が催されるとともに、各教区(特区)からの参加者には、この時だけは運営者としてブースを出展し、未来の仏青会員へ繋がるよう参加者にアピールしていただきました。各ブースは趣向を凝らし、会場を盛り上げ、参加者の笑顔を生みだしていました。

そんな中、参加者だけでなくブースの運営者が一緒に楽しんでる姿が見られ、私はとても嬉しくなりました。それは、ブース出展を企画した目的のひとつが、「仏青に集う人びとが、一緒にひとつのものを作り上げ楽しんでもらう」ということだったからです。仲間と一緒に同じ目的に向かっていくなかで、互いに意見を出し合い、ときには讃えあい、時には衝突もある。私自身、この大会を企画するにあたって、ひとつの目的に向かい、仲間と集い、充実した日々を送ることができました。それが仏青という集まりであり、この大会をきっかけとして、初めて参加した方にも、これまで仏青会員だった方にもその魅力が伝わり、仏青の活性化に繋がればと願います。

翌7日の青年を対象とした親鸞聖人七百五十回大遠忌法要には、前日に引き続き、参加者の皆さん、また、宗門関係学校の皆さんと共に宗祖讚仰作法しゅうそうさんごうさほうの音楽法要をお勤めすることができ、私にとってこの2日間、そして大会に関わったこの1年はかけがえない思い出となりました。

多くの方々に参加して頂くことができ、スタッフも笑顔で終われた事はとても良かったです。至らなかつた点や反省点も多々ありますが、多くの関係者の多大なるご協力により大会が無事終えられたことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





彼國の便り

a letter from Pure Land

『宗教なき生活は羅針盤のない船のごとし』

これは数年前、本願寺第二庁舎にかかっていた垂れ幕です。若い世代の皆さんは『宗教』と言うことばを聞いてどのようなイメージをもつでしょうか？お寺で生まれ育った人を除けば「自分にはまだ関係ない。いや考えたこともない。」という人が大半だと思います。

羅針盤らしんばんのない船に乗ろうと思う人はいません。もちろんそれは大海に迷ってしまうからです。でも宗教のない生活を送っている人はたくさんいます。私たちは必ずこの世のいのちを終えます。

そして、その時に往く先が定まっていることを知る人とそうでない人とでは自ずと今の生き方が違ってくると思います。

人生における羅針盤となり、私たちをまことの道へと導いてくださるのが仏の教えです。

私は、七月下旬に「子どものつどい in 本願寺」、八月上旬に青年を対象とした親鸞しんらんしょうにん聖人七百五十回大遠忌だいおんきの法要行事に参加するご縁をいただきました。仏青関係の行事に参加することは今までもありましたが、あれほど多くの子どもたちと接する機会は今までありませんでした。時にははじめがなくて注意することもありましたが、子どもたちが手を合わせ「南無阿彌陀仏なもあみだぶつ」と称えている姿をみると胸に熱くこみ上げてくるものがありました。

そして「いつまでもその心を持ち続けて、これからも親鸞さまとともに歩んでくださいね。」と願わずにはいられませんでした。

文・畦森 本英（仏教青年連盟 指導講師）

Air Mail
Par Avion

中山
真理子

私のオススメは JABBERLOOP のアルバム「攻め燃える」。この中の「シロクマ」がめっちゃ好き。吹奏楽 ver. とバンド ver.、雰囲気全然違っていいんだなあ。Tp と Sax のソロがまた良くて、何回きいても感動もの。一度お試しあれ♪

藤井
恵昭

竹原ピストル / 「SKIP ON THE POEM」

最初に彼の歌を聴いたときの衝撃は今でも忘れられません。その歌に、その溢れ出る言葉の数々に心の奥底からわしづかみにされました。彼に出会えて良かった。こんな衝撃を是非皆さんにも味わっていただきたいです。

宮崎
寿洋

僕のオススメは The Shaggs というバンド。未だに初めて聴いた時の衝撃を忘れられない。アルバム名は「Philosophy of The World」。人間の可能性を痛感するこの一枚。非日常性を味わいたい人はぜひ聴いてください!!

上高原
直樹

私がお勧めする一枚は、相対性理論というアーティストのアルバム「シフォン主義」です。秋ということで読書をする時などに聞いています。独特の女性ボーカルとローテンポな曲がマッチしていて、つい口ずさみたくくなるような歌詞もこのアーティストの魅力です。ぜひ一度聞いてみてください！

野口
哲城

今年の夏は暑かったっ！色んな事もありました！もう夏も終わりましたが、オススメの一枚は…「Summer Collection with Music Clips」
ヤッパッ www キタコレ www はい、ドン！ **MINMI** ちゃんです。
実は冬でも年中ずっと私の中、響いてます。CD は、お店でちゃんと買いましょう。

日下
賢裕

私がプッシュしたい1枚はレイ・ハラカミさんの [lust]。それまでロック一辺倒だった私が、このアルバムに出遇って初めて、エレクトロニカという音楽の美しさ、心地良さに気づきました。もうハラカミさんの新しい音は聞けませんが、このアルバムは、これからもずっと聞いていこうと思います。合掌

makoto no.146

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟機関誌 2011年12月15日発行 印刷：ヨシダ印刷株式会社
編集/発行：仏教青年連盟 広報委員会 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内 TEL：075-371-5181(代)



お念珠を、いつもそばに。

腕輪念珠
&
お念珠型ストラップ
新色登場

親鸞聖人750回大遠忌法要記念カラー

☆ 腕輪念珠：150円(一般価格)/120円(連盟価格)

☆ 念珠型ストラップ：550円(一般価格)/500円(連盟価格)

※連盟価格とは、仏教青年連盟に加盟されている方の価格です。

お問い合わせ：浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟

TEL：075-371-5181(代) yba@hongwanji.or.jp

makoto No.146

<http://p.booklog.jp/book/45471>

著者 : bussei

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/bussei/profile>

ホームページ : <http://yba.hongwanji.or.jp/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45471>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/45471>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.